

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立 城山台小学校  
校長 森 一展

中学校区におけるめざす子ども像  
自分で目標を持ち、思いやりを行動に移して、豊かな人間関係が作れる子

令和6年度 重点目標 「子どもの笑顔を大切に、ともに学び続ける学校づくり～みながかがやく城山小 みなでつくる城山小～」  
総合的な学力(教科学力・学びの基礎力・社会的実践力)の育成に向けて授業改善推進 保・幼・小連携、小中一貫教育の推進を推し進め縦につながる指導体制の確立

確かな学びの現状  
令和5年度の全国学力学習状況調査では、国語・算数共に全国平均を約5%下回った。しかし質問紙調査から、ほぼ全ての児童が「国語や算数の勉強が大切だと思っている」と答えていることがわかった。しかし、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」という質問に対する肯定的回答も75%となっている。学習することが大切であることは十分に感じているが、学習の進め方、広め方や深め方、そして、他者とのつながり方についての学習方法が身につけていないことが伺い知れる。児童が自分事として学習に向かい合い進めていくために、「自ら学ぶ学習方法」を身につけさせる必要があると考えられる。

豊かな心・健やかな体の現状  
全国学力・学習状況調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけない」という項目では全員が、「人の役にたつ人間になりたいと思う」という項目ではほぼ全員が肯定的に答えている。このことから、道徳的な価値観や将来の自分像は明るく持っていることがわかる。しかし、「自分には、よいところがあると思いますか」という項目では、肯定的な回答が80%を下回っている。(全国84%)このことから、自分に対する肯定感を持ちきれないことがうかがえる。学校生活の中心である学習活動を通して、教師の肯定的な関りから自尊感情の向上を、仲間との支え合い、学び合う関係から自己有用感の向上をはかっていきたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (2学期中)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	主体的に学ぶ子どもの育成と授業改善	総合的な学力を育成するために、一人での学び(個別最適な学び)や仲間との学び(協働的な学び)を、児童が自ら選ぶことができる学び(学びのコンパス)へと進化させていく。そのために、「自由な発想で問題を解決する場面」や「試行錯誤を繰り返した問題解決の場面」を作る。 ●友だちを信頼し、素直に友だちに関わり意見を言える場面」を作る。そのために、小さい集団(2人組や4人組)での「短い時間の対話」の回数を増やす。 ●学習内容の解決方法や取り組み方、次の学習への期待感が高まるような振り返り方法について、研修を深め、特にICTとの連携方法を高める。 ●ICT機器の活用を進め、児童のICT活用力を向上させる。ICT機器の活用を通して、個別最適な学びや協働的な学びへと、児童の学びを進めていく。 ●探究学習を意識した学習活動を増やしていく。そのために、「自由な発想で問題を解決する場面」や「試行錯誤を繰り返した問題解決の場面」を作る。 ●友だちを信頼し、素直に友だちに関わり意見を言える場面」を作る。そのために、小さい集団(2人組や4人組)での「短い時間の対話」の回数を増やす。	全教員が研究授業・公開授業を行い、お互いの授業を参観しあうことで、授業の進め方や児童への関わり方を学びあい、授業力向上を図る。 ●研究授業・研修会での討議 ●教育アワード先生はよいところを認めてくれる「授業中、友だちとの話し合いがある」	●児童用パソコンの活用頻度 ●児童用パソコンの活用内容と、より良い活用方法を進めていく。 ●児童が自分なりに問題解決にむかうことができる学習方法 ●研修委員会での実践報告	●実践報告 ●学年交流実践報告 ●学年交流実践報告 ●学年交流校内研修 ●学年交流校内研修	●年度末 ●8月と2月 ●8月と2月 ●8月と2月	●探究的な学びを意識した研究授業を行うことができ、職員の見学も進んでいる。 ●児童用パソコンの活用が進み、各学年で発達段階に応じた活用を進められている。 ●探究学習を意識した学習は増えているが、まだまだ研修が必要である。 ●小集団での学習や対話を増やすことで、安心して学んでいる様子の児童が増えた。 ●振り返りはできているが、探究学習での自己調整や、ICTの活用は研修が必要である。	●探究的な学びについて教職員で学び合うことができ、学習課題を子どもが決めるなど授業改善が進んでいる。ICT機器の活用も進んだが、個別最適な学びや協働的な学びへのつながりがまだまだ薄い。 ●ペア学習やグループ学習の取り組みが増えたことで、対話の時間は相当に増えてきた。学習課題や学習方法を、子どもたちが考えて決める学習時間は増えてきた。しかし、振り返りを通して、自己選択・自己調整など、子どもが自分で学び方をコントロールする学習方法の研究が必要である。	●ICT機器の活用が進んでいる様子を知ることができた。アプリの使い方を教えているという話を自宅で聞いている。ICTの活用は必須の能力であり、社会へと繋がる取り組みだと思ふ。 ●一方通行の授業ではなく、子どもたちが周りを見て、教えあっている姿がある。教えあうことで学びが深まっていると共に、「説明することが出来た、出来ない」という経験を通して、自分の学習理解について、客観的に捉える機会になっていると育つように感じられた。		
			心豊かな心の教育の充実	人権尊重を基盤とした学校づくりに取り組み、いじめや差別を許さない学校を作る。そのために、①児童の自尊感情と自己有用感を高める。②自分の居場所を感じられる学級集団と学校づくりを進めていく。	●いじめや差別を絶対に許さないという教職員の意識を向上させる。また、児童がお互いの存在を認めあう「人権意識」を高めあうために協働的な取り組みを増やし、より良い集団作りをめぐる。 ●強い否定や命令口調ではなく、児童の尊厳に配慮した「温かい言葉や関わり方」にあふれる環境づくりに努む。 ●小中一貫教育を推進し、日々の教育活動を通して自尊感情を高め、他者を理解する気持ちや、助け合い、協力し合えることができる子どもを育てる。	●教職員全員で人権課題や取り組みへの意見交換 ●協働的な取り組みや集団作りの取り組み ●職員会議や職員打ち合わせ等での生徒指導案件の減少	●生活アンケート ●報告書	●毎学期 ●年度末	●協働的な学習場面が増えていることで、お互いの存在を認めあう意識が高まっている。 ●ペア学習やグループ学習に教師が温かい言葉かけを教師が行える場面が増えている。 ●子どもたちが関わり合う学習が増え、お互いの存在を認めあえるようになってきた。	●学習時間を基本に、協働的な取り組みや集団作りの活動を行うことができたため、お互いの存在を認めあう雰囲気や各学級で生まれている。教職員の声かけについても、振り返りを行うことで、子どもたちにとってより共感的な声かけを行うことができた。子どもたちの自尊感情の高まりを感じられた。	●授業中の子ども同士の距離感の近さや声を掛け合う様子から、とても仲が良いことが分かる。教室に大きな声がないことから、優しい雰囲気や学校生活を過ごしていることが感じられる。「静かにしなさい」という言葉がないことからわかる。
			体力向上	スポーツに親しめる環境づくりに取り組み、基本的な運動能力を高めるための集団遊びや運動を行う機会を増やす。学校給食を通して食育を行い、正しい食生活や生活リズムの定着に努める。また、自分の健康について考える。	●体を動かすことを通じて、健やかな体の育成をめざす。6年間を通して、知識や技能が身につくように、系統立てたカリキュラムを組み立てる。 ●学校給食を通して食育を充実させ、食への関心を高める。また、自分の健康について考える。	●児童体育委員会による外遊びや運動の啓発 ●体育授業において課題の解決方法の協働的解決 ●体力向上につながる授業研究 ●給食時間の放送で食育への啓発 ●児童給食委員会による、食育に関する絵本の読み聞かせ	●学年交流実践報告 ●実践報告	●8月と2月 ●毎学期	●体育授業でも協働的な活動を取り入れ、運動に自発的に取り組めるようになっている。 ●児童給食委員会の啓発や栄養教育の授業を行っている。	●体育授業でも協働的な活動を進めていたが、友だちと声をかけながら運動に取り組むなど、前向きな気持ちで育まれている。食に関わる教育・啓発がしっかり出来たが、児童委員会の取り組み方については研修を進めたい。	●子どもたちが楽しんで体育に取り組んでおり、体力向上につながっていることが感じられた。食育が十分に行われ、食への関心が強い。家庭でも給食のことを話してくれている。
			地域協働	学校情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域住民による学校評価や学校経営への参画、また、関係機関との連携により、学校経営の改善を図る。	●学校ホームページの更新頻度と学校情報の発信内容 ●情報発信に伴う、学校教育への理解度向上 ●可能な範囲での地域ボランティア等への協力依頼	●学校ホームページの更新頻度と学校情報の発信内容 ●情報発信に伴う、学校教育への理解度向上	●教育アンケート ●実践報告	●年度末 ●年度末	●学校ホームページを通して、本校の教育活動の様子に発信に努めている。 ●学校行事へのボランティア募集やPTA活動の見直しと推進を進めている。	●学校ホームページを通じ、学校の様子を発信することはできていたと判断している。ボランティア活動にも協力をいただいた。PTA会員との会議を進めながら、持続可能なPTA活動を模索している所である。	●学校ホームページの更新が頻繁に行われており、特に高学年の宿泊学習の記事がたくさんあり、保護者としては楽しみにしている。ボランティアも積極的に行われている。

校長より(年度末)  
子どもたちの個性や可能性を引き出しを増やすために、「他者との関わり」を重視した授業や学級指導、児童指導を推進してきた。「対話等のリアル」な交流と「ICTを活用したデジタル」上での交流等は、温かみのある「学習指導と学級経営」につながった。「学びのコンパス」を意識した授業改善が、子どもたちの前向きな意識を醸成し、心の教育にもプラスの影響を与えていることが、普段の学校内の落ち着いた雰囲気から感じられる。教職員が一丸となり、教育活動を前進させられたと判断している。来年度は落ち着いた学校環境の上に、「自己決定・自己選択・自己調整」等、子どもが自ら学びを進める教育活動を進めていきたい。文部科学省から提示されている、生徒指導と学習指導の一体化を目指し、子どもが安心して学べる学校を目指す。保護者の方への情報発信は、次年度以降も積極的に行っていく。

学校関係者評価者から(年度末)  
私たちが受けてきた教育とは全く違う方向になっており、驚きの方が多かった。低学年から児童用パソコンに触れ活用する場面を見たが、これからの社会ではICTの活用能力は必須のため、とても良い学習が進められている。普段の学習の様子から、とにかく「子どもたちの仲の良さ」が感じられると共に、「授業中に寝ている子や勉強に集中できていない子」が少ない事に驚いた。一方的な授業から子どもたちが学び合う学習への転換に十分に感じる事ができた。